

草の頭窯

青山双溪(双男)略歴



昭和四一年 父禮三と共に「草の頭窯」を開窯する。

昭和五五年 伊勢丹新宿店にて草の頭窯父子展(以後継続)

平成一二年 第二十七回美濃陶芸展にて美濃陶芸大賞(白陶)

平成一三年 「多治見市作品永年保存事業」の作品に選定される(白陶) 「小名田窯下窯出土白天目碗の土と釉薬について」

平成一四年 『尾張青瓷研究会』同右演目で講演

平成一五年 美濃陶芸協合理事後 副会長に就任(平成一三年退任)

平成一六年 第二回幸兵衛賞を受賞 「山茶碗の成形技法について」 『瑞浪陶磁資料館研究紀要第一〇号』

平成一八年 「美濃窯における施釉陶器の皿にみられる成形技法について」 『瑞浪陶磁資料館研究紀要第一一号』

平成一九年 九州国立博物館文化庁海外展「日本のやきもの」で、「美濃における紐輪積みロクロ成形について」講演

平成二〇年 「桃山陶にみられる紐輪積み成形技法について」 『瑞浪陶磁資料館研究紀要第一二号』

平成二二年 岐阜県伝統文化継承功績顕彰

「出土した白天目茶碗の器形・胎土・釉薬について」 『瑞浪市陶磁資料館研究紀要第十三号』

平成二四年 「伯耆茶碗の成形技法について」 『瑞浪市陶磁資料館研究紀要第一四号』

「武野紹鷗所持白天目の再現」 『茶の湯文化学会東海ブロック例会』発表

名古屋工業大学先進セラミックス研究センターにて「白天目の再現について」講演

青山双男を改名し双溪を名乗る。

京都東山「野村美術館」にて双溪茶陶展

岐阜新聞「素描」執筆

岐阜高島屋にて双溪作陶展開催

多治見市美濃焼ミュージアムにて企画展「白天目灰釉古陶の再現」

岐阜県芸術文化顕彰を受賞 荒川豊蔵資料館において大萱一牟田洞古窯跡出土瀬戸黒の検証と再現

平成二七年 国立大学法人名古屋工業大学

第五四回セラミックス基礎科学討論会での「瀬戸黒釉中の鉄の分析」発表と技術資料提供

岐阜県に白天目を寄贈し感謝状を受与される

東洋陶磁学会第四十五回大会「自然科学系の東洋陶磁研究報告」

【研究発表】白天目と瀬戸黒の分析を発表

多治見市無形文化財白天目保持者に認定される

平成三〇年

草の頭窯 青山双溪(双男)作陶展

令和二年七月一日(水)↓七月七日(火)※最終日は午後三時閉場
岐阜高島屋 八階美術画廊

※催しの会期・営業時間が変更になる場合がございます

